

令和7年度

埼玉県献血推進協議会

令和8年1月27日（火曜日）

午後6時～午後7時30分

埼玉県保健医療部薬務課

令和7年度 埼玉県献血推進協議会 議事録

発言者	内容
<p>司会 (手塚副課長)</p>	<p>定刻になりましたので、ただ今から「令和7年度 埼玉県献血推進協議会」を開会いたします。</p> <p>委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、議事に入るまでの間、進行をつとめます薬務課副課長の手塚でございます。</p> <p>どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>本協議会は、「埼玉県献血推進協議会要綱」第9条により、公開となっております。</p> <p>本日は、1名のオンライン傍聴者がおられる予定でございますので、ご報告いたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、縄田 保健医療部長から、御挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>保健医療部長</p>	<p>皆さまこんばんは。埼玉県保健医療部長の縄田でございます。</p> <p>「令和7年度 埼玉県献血推進協議会」の開催に当たりまして、御挨拶を申し上げます。</p> <p>皆様におかれましては、大変御多忙の中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。</p> <p>また、本県の献血推進事業に日頃から多大な御協力をいただいておりますことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。</p> <p>さて、本県では、令和6年度に約24万人の多くの皆様に献血をいただき、献血者数は、前年度に比べ1,772人増加いたしました。</p> <p>それに伴い献血量も増加し、必要とする医療機関に血液製剤を届けることができました。</p> <p>これも献血に関わる全ての皆様の御尽力の賜物と考えております。重ねてお礼を申し上げます。</p> <p>一方で、今年度は季節性インフルエンザの流行入りが例年より1か月ほど早かったことから、11月以降、献血者の確保が難しかったと聞いており、やはり安定的に献血者を確保するには、より多くの方に献血への理解を深めていただくことが必要であると実感したところです。</p> <p>献血者の年齢構成は、50代以上の献血者数が増加している一方で、10代から30代の献血者数は減少しており、若年層の献血者数の確保が大き</p>

	<p>な課題と考えております。</p> <p>県では埼玉県赤十字血液センターと協力し、若年層に向けて、学生ボランティアやタレント等の御協力もいただきながら、様々なキャンペーンやイベントを実施しております。</p> <p>さらに、「血液に関する出前講座」の開催や、献血の大切さや安全性などの情報を SNS で発信するなど、若年層に対し様々な啓発事業を積極的に展開することで、献血に対するハードルを下げることに努めています。</p> <p>なかでも、教育委員会や私立学校をはじめ関係機関の皆様と連携して、高等学校における校内献血の推進に力を入れており、令和3年から増加に転じたところです。</p> <p>その結果、令和6年度の高校生献血者数は、6,513人となっており、東京都に次いで全国で2番目に多い結果となっております。</p> <p>県といたしましては、今後も、将来の献血を支える若年層の献血者を増やしていくため、広く普及啓発に取り組んでまいります。</p> <p>本日の協議会では、今年度の献血状況を報告させていただいた後、来年度の埼玉県献血推進計画（案）について御審議いただくこととしています。</p> <p>引き続き、献血により安全な血液を確保し、必要な血液製剤を患者さんにお届けすることができるよう、委員の皆様には忌憚のない御意見、御提言を賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。縄田部長は、この後所要がございますので、ここで退席させていただきます。</p> <p>議事に入ります前に、資料の確認をお願いいたします。</p> <p>委員の皆様へ事前に送付しました資料は、  資料1：令和7年度 埼玉県の献血状況について  資料2：血液事業の動向について  資料3：令和8年度 埼玉県献血推進計画（案）の3種でございます。</p> <p>あわせて、本日の次第と出席者名簿を送付しております。  お手元に御用意ください。</p>
<p>司会</p>	<p>続きまして、操作等について御説明いたします。  まず、発言時以外は、音声をミュートにしてください。</p>

	<p>御意見・御質問がある場合には、画面上部にある「手を挙げる」ボタンを選択してください。</p> <p>議長が指名しますので、ミュートを解除してから御発言ください。</p> <p>発言終了後は、音声をミュートに戻してください。</p>
司会	<p>次に、本日の会議につきましては、事務局記録用に録画させていただいております。あらかじめ御了承くださるようお願い申し上げます。</p>
司会	<p>続きまして、本日御出席の委員の皆様を御紹介いたします。</p> <p>画面で本日の出席者名簿を共有いたしますので、御覧ください。</p> <p>それでは委員の方をご紹介します。</p> <p>登坂英明委員でございます。</p> <p>吉川陽子委員でございます。</p> <p>五十嵐敦子委員でございます。</p> <p>前川康恵委員でございます。</p> <p>鴨志田新一委員でございます。</p> <p>関純彦委員でございます。</p> <p>細野正委員でございます。</p> <p>萩原学委員でございます。</p> <p>種田恭子委員でございます。</p> <p>砂生敏一委員でございます。</p> <p>奈良輪美里委員でございます。</p> <p>住友健悟委員でございます。</p> <p>田中邦典委員でございます。</p> <p>以上、協議会委員 17 名中、本日は 13 名の委員に御出席いただいております。</p> <p>なお、事務局職員につきましては、事前に送付いたしました出席者名簿により、紹介に代えさせていただきます。</p>
司会	<p>それでは、ここで当協議会の登坂会長から、御挨拶をいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>
登坂会長	<p>皆さん、こんにちは。登坂でございます。</p> <p>本年度の献血推進協議会の開会にあたり、御挨拶を申し上げます。</p> <p>医療現場で患者さんの命を守るためには、安全で安定した血液製剤の供給が欠かせません。</p> <p>しかし、現時点では人工的に血液を作り出す技術が実用化されておらず、長期保存もかきません。</p>

	<p>一人ひとりの毎日の善意と協力による献血が、医療を支える大きな力となっています。</p> <p>しかしながら、近年、少子化などの理由から、特に若年層の献血参加が減っています。</p> <p>今後の血液事業を継続していくに当たって、若年層に献血への理解を深めていただき、積極的に参加していただくことが大きな課題であると考えております。</p> <p>若い時期から献血に参加することで、その後の献血への抵抗感が薄れるだけでなく、若者自身の達成感や成功体験を得ることにもつながると思います。</p> <p>冒頭、保健医療部長からも校内献血の推進に力を入れているとの話もありましたので、学校での実施に御理解と御協力を賜りたいと思っております。また、献血ルームや街頭で運行しているバスでの献血にも御参加いただけるよう、若いうちから献血に触れあえる機会を提供する取り組みをお願いします。</p> <p>本日御出席の委員には、公募委員として応募された学生の方がいらっしゃると伺っております。</p> <p>今後の埼玉県献血事業をどのように推進・継続していくかについて、若い世代ならではの視点でぜひ御意見を伺いたいと考えております。</p> <p>そのほかの皆様におかれましても、忌憚のない御意見を賜り、この協議会を活発な議論の場としたいと考えております。</p> <p>それではみなさん、どうぞよろしく願いいたします。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事の進行につきまして、埼玉県献血推進協議会要綱第7条第1項の規定によりまして、登坂会長に議長をお願いしたいと存じます。登坂会長、よろしく願いいたします。</p>
<p>議長 (登坂会長)</p>	<p>それでは、議長をつとめさせていただきます。</p> <p>本日は、報告事項が2件、協議事項が1件ございます。</p> <p>それぞれ、事務局から報告を受け、皆様から御質問・御意見等を頂戴したいと思っておりますが、報告事項については2件の説明後にまとめて、御質問・御意見を頂戴します。</p> <p>はじめに、報告事項の1点目「令和7年度 埼玉県の献血状況について」、事務局から報告してください。</p>

<p>事務局 (一場主査)</p>	<p>薬務課薬物対策・献血担当の一場と申します。 資料1「令和7年度埼玉県献血状況について」御説明いたします。</p> <p>(P.4) まず、献血確保状況のうち、令和7年11月末現在の血液確保量の状況です。総確保量の年度目標110,396Lに対し、達成率は、63.5%となっています。前年同月と比較すると、約3%下回っています。</p> <p>(P.5) 令和7年11月末現在の献血受付け者確保人数の状況です。令和7年度の一番上、受付け者数の年度目標277,000人に対し、達成率は、64.6%となっています。前年同月と比較すると、こちらも約3ポイント下回っています。いずれも、今年度末までに年度目標を達成できるよう、献血者の確保に努めているところです。</p> <p>(P.6) 献血者数と献血ができなかった人数の状況です。令和7年度が一番上、献血者数は158,761人で、一番下、献血ができなかった人数は、11.2%となっています。</p> <p>(P.7) 令和7年11月末現在の輸血用血液製剤の供給状況です。全血製剤については、供給実績はありませんが、赤血球製剤、血漿製剤は、前年同月に比べ、多く供給されています。血小板製剤については、前年同月に比べ、若干少ない供給となっています。</p> <p>(P.8) 令和7年12月末現在の高校生献血の状況です。一番上、校内実施校数は、前年同月より7校多い、72校で実施されています。表の真ん中の校内献血者数は、前年度ほぼ同等となっています。</p> <p>(P.9) こちらは、高校生献血者数の推移を他都府県と比較したグラフです。令和6年度、埼玉県は東京都に次いで全国第2位となっています。高校献血者数は少しずつですが、回復してきております。</p> <p>(P.10)</p>
-----------------------	--

献血推進方策の実施状況です。御覧のとおり、普及啓発のための広報やキャンペーンを実施しています。順を追って、詳しく御説明いたします。

(P. 11)

まず、彩の国さいたま「愛の血液助け合い運動」です。運動期間である令和7年7月～8月に、FM NACK5での放送や、県及び埼玉県赤十字血液センターのホームページ上での掲載を行いました。また、右側にあります、中学生を対象としたポスターコンクールの最優秀作品を活用したポスターを県内中学校や関係機関、関係団体で掲示しました。

(P. 12)

彩の国さいたま「愛の血液助け合いの集い」を令和7年7月29日に開催しました。厚生労働大臣表彰3団体、厚生労働大臣感謝状10団体への伝達、知事感謝状19団体、中学生対象のポスターコンクール県知事賞4人への表彰状の授与や、献血に関する体験発表などを行うことにより、県民に献血の普及を図るとともに献血への理解と協力を求めました。

(P. 13)

SNSを使用した広報です。右側の上の画像ですが、県では、埼玉県の献血マスコット「エビオ君」のXアカウントや県公式LINEに各キャンペーンのお知らせを投稿しました。下の画像ですが、埼玉県広報アンバサダー4名が自ら献血ルームで献血を行い、その様子をInstagramで動画配信いただきました。また、血液センターでは、X、facebook、Instagramにより、献血に関する情報発信をしました。

(P. 14)

市町村との連携です。県は、さいたま市、所沢市、三芳町を除く市町村に対し、献血者確保事業に要する経費として、計2,760千円を補助しました。

(P. 15)

次に、若年層献血の推進です。まず、新社会人献血キャンペーンを令和7年4月～6月に実施し、236人の方に献血をいただきました。

(P. 16)

中学生を対象とした献血推進ポスターコンクールの実施です。44校、307人の生徒からご応募いただき、その中から、県知事賞4人、保健医療

部長賞 20 人、県赤十字血液センター所長賞 22 人が受賞しました。表彰式は、先ほど御説明した 7 月の「愛の血液助け合いの集い」において、表彰状を授与しました。

(P. 17)

献血経験者に献血未経験者を紹介いただき、一緒に献血をしていただく「初回献血！お友達＆ご家族紹介キャンペーン」を令和 7 年 9 月～11 月に実施し、772 人の方に献血をいただきました。

(P. 18)

まさに今現在行っているものですが、「はたちの献血キャンペーン」を令和 8 年 1 月～2 月に実施しています。各市町村の成人式の会場等で啓発用の記念品を配布したほか、X や LINE への投稿、FM NACK5 やテレビ埼玉での広報を行いました。また、彩の国だより 2 月号にも掲載予定で、そのウェブ版では、県の広報アンバサダーが献血を行った PR 動画を掲載する予定です。

(P. 19)

卒業献血キャンペーンを、令和 8 年 2 月～4 月に実施する予定です。既に、県内の高等学校にキャンペーンのポスターなどを送付しており、掲示をお願いしています。昨年度は、746 人に献血いただきました。

(P. 20)

高校生献血カードについてです。高校生献血を推進するために、実施している取組で、毎年、高校 1 年生にカードを配布しています。献血を行うとスタンプを押してもらえ、3 個、6 個、9 個集まると、記念品を贈呈してもらえるもので、毎年、複数回献血に協力いただき、卒業後も継続的に献血していただくことを狙いとしています。

令和 7 年度は、11 月までにスタンプ 3 個が 329 人、6 個が 145 人、9 個が 38 人となっております。

(P. 21)

血液に関する出前講座です。

県内の小学校、中学校、高等学校及び専門学校等を対象に、専門家である大学名誉教授による血液の講演会を開催しています。令和 7 年 12 月末までに 11 校実施いただきました。

(P. 22)

高校訪問についてです。校内献血を推進するため、県保健所、市町村、血液センターの三者が合同で高等学校を訪問し、その実施を依頼しています。令和7年11月末までに28校にお願いに上がりました。

(P. 23)

日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の見学です。献血された血液が輸血用血液製剤になるまでの工程等を学ぶことで、血液事業と献血について広く県民に普及啓発するため、見学者を受け入れています。令和7年11月末までに2団体15人が見学に訪れました。

(P. 24)

令和8年1月～3月に実施する「シニア60～64 初回献血キャンペーン」です。献血可能年齢が設定されていることや献血時に服用可能な薬があることなど、中高年層を中心に正しい知識の普及啓発を図り、広く県民各層に理解と協力を求めるものです。

60歳～64歳の間に初めて献血する方を対象としており、令和6年度は、184人に献血をいただきました。

(P. 25)

次に、安全な血液の安定供給の確保についてです。複数回献血の推進として、献血Web会員サービス「ラブラッド」への加入を促進し、複数回の成分献血、あるいは400mLの献血者の確保を図りました。

また、移動採血場所の確保として、県内の事業所・学校・ショッピングモール等において、移動採血車（いわゆる献血バス）で献血を実施しました。

(P. 26)

次に、適正使用の推進についてです。埼玉県合同輸血療法委員会の活動ですが、医療機関における血液製剤の適正使用を推進するため、血液製剤使用状況や輸血医療に係わる様々な問題点を共有し、今後の方向性について、意見交換を行うものです。

今年度は、世話人会を5月と10月の2回開催いたしました。血液センターのホームページ上にホームページを開設し、事業報告書や活動内容を掲載し、情報提供しています。

また、輸血を行う医療機関の医療従事者を対象に、令和8年3月7日に埼玉輸血フォーラムの開催予定です。資料では、令和7年となっておりますが、訂正させていただきます。

	<p>(P. 27)</p> <p>次に、埼玉県献血推進協議会についてです。本日のこの会議になりますので、説明は省略させていただきます。</p> <p>(P. 28)</p> <p>その他重要事項についてです。</p> <p>日々の取組ではありますが、県は、毎日、血液センターの血液在庫量を把握し、血液製剤の在庫量が不足する恐れがあるときは、薬務課ホームページやXを通じて、献血の協力を広く呼び掛けています。</p> <p>(P. 29)</p> <p>このページ以降は参考資料となりますので、お時間のある時に御確認いただければと思います。</p> <p>説明は以上となります。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>御質問・御意見については、次の報告の後にまとめて伺います。</p> <p>続きまして、報告事項の2点目「血液事業の動向について」、事務局から説明をお願いします。</p>
血液センター (中川所長)	<p>埼玉県赤十字血液センターの中川でございます。</p> <p>本日は血液事業の動向についてご説明させていただきます。</p> <p>今回ご説明する内容は、1. 「令和6年度供給・採血実績（結果）について」、2. 「令和7年度供給・採血の進捗状況について」、3. 「年代別献血者の推移について」、4. 「血液の安定確保に向けた取り組みについて」の4点でございます。</p> <p>(P. 4)</p> <p>まず、医療機関へお届けした赤血球製剤の供給実績です。</p> <p>令和6年度は令和5年度と比較して約102%に増加しております。年々増加している要因としては、高齢者人口の増加に加え、医療機関数や病床数などの増加が考えられます。</p> <p>(P. 5)</p> <p>次に血小板製剤です。埼玉県の主要医療機関における使用量が減少したことから、令和6年度は令和5年度比で95.1%と減少しております。</p>

(P. 6)

最後に血漿製剤です。埼玉県における血漿製剤の使用量は、令和6年度には令和5年度と比較し同程度の使用量となっております。

(P. 7)

ここからは令和6年度の採血実績についてご説明いたします。先ほど御説明した赤血球製剤の供給状況の増加に伴い、献血へのご協力も引き続き必要となっております。そのため、献血バスの稼働台数を増やし、県民の皆様へ献血へご協力いただける機会の拡充を図ってまいりました。また、各種協力団体の皆様へ血液事業の現状を御理解いただき、積極的に御協力いただいた結果、献血者の御協力につながっております。

(P. 8)

血小板献血につきましては、効率的な採血が進んだことにより、令和5年度は献血者数が減少しておりました。令和6年度においては、令和5年度と同程度の御協力をいただいております。

(P. 9)

血漿献血についても、医療機関の需要に応じて御協力をお願いした結果、献血者数は増加しております。

(P. 10)

令和7年度供給・採血の進捗状況について御説明いたします。

(P. 11-13)

11月末時点では、3製剤すべてにおいて、令和6年度実績を上回る推移を示しており、今後も増加傾向が続くものと予測しております。

次に、献血者数の推移について御説明いたします。

(P. 14-16)

こちらは月別の献血者数の推移となります。現在のところ、令和7年度においては、令和6年度を下回る協力実績となっております。今後、県民の皆様にはより一層の御協力を呼びかけていきます。

(P. 17)

年代別献血者の推移について御説明いたします。

(P. 18)

埼玉県における年代別献血者数です。県内の人口構成の推移と同様に、献血に御協力いただいている方の年代構成も同じような傾向を示しております。

(P. 19)

埼玉県内の高等学校における校内献血の実施状況です。

令和7年度は12月末時点の実績となりますが、今後の予定している高等学校を含めると、令和6年度を上回る御協力が得られる見込みです。

(P. 20)

ここからは血液の安定確保に向けた取り組みについてご説明いたします。

(P. 21)

行政との連携ですが、先ほど薬務課様から御説明がありました通り、各種キャンペーンなどにおいて多大なる御支援をいただいております。

(P. 22)

血液センターの取り組みです。新規協力団体の拡充を進めた結果、資料にお示した通り、新たに多くの団体の皆様に御協力をいただくことができました。

(P. 23)

埼玉県を舞台とした漫画とのコラボキャンペーンを実施しました。また、大宮区内の製菓専門学校と連携し、学生の皆様が制作した焼き菓子を記念品としたキャンペーンも実施しました。

(P. 24)

埼玉県バーチャル観光大使や自衛隊とのコラボキャンペーンを実施し、大変御好評をいただきました。

(P. 25)

鉄道博物館のご協力により、200系新幹線をモチーフにした記念品を作成しました。また、全国初の取り組みとして、玩具メーカーナノブロックとコラボし、オリジナル献血バスを記念品としたキャンペーンを実施いたしました。

	<p>(P. 26)</p> <p>埼玉ワイルドナイツおよび浦和レッドダイヤモンドズの選手に御協力をいただき、献血啓発イベントを実施しました。献血に関するトークショー等を実施し、改めてプロスポーツ団体の影響力を実感したところがあります。</p> <p>(P. 27)</p> <p>レッドブル大宮アルディージャには、冬期や献血協力者が減少する時期にキャンペーンを実施し、御協力をいただきました。また、埼玉西武ライオンズの現役選手には啓発ポスターへ御出演いただきました。</p> <p>(P. 28)</p> <p>10代を中心とする若年層への啓発として、はたちの献血や映画「TOKYOMER」とのコラボを実施しております。</p> <p>(P. 29)</p> <p>埼玉県学生献血推進連盟によるキッズ献血などのイベントを開催し、若年層から若年層への呼びかけを行っていただいております。</p> <p>(P. 30)</p> <p>将来の献血者層の拡充を目的として、献血に関する出前講座を実施しております。令和7年度はオンラインを活用した事業など、開催する方法の多様化が進んでおります。</p> <p>(P. 31)</p> <p>最後となりますが、今後も引き続き、協力団体の皆様のお力添えをいただきながら、安全な血液を安定的に供給できるよう努めてまいります。御清聴ありがとうございました。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>報告事項「令和7年度 埼玉県の献血状況について」及び「血液事業の動向について」について、薬務課及び埼玉県赤十字血液センター中川所長より報告を受けました。</p> <p>ただ今の説明につきまして、委員の皆様方、御質問、御意見等ございますでしょうか。</p>
奈良輪委員	<p>資料1のSNSを使用した広報について、血液センターではX、Facebook、Instagramにてアカウント使用されているというお話がありましたが、</p>

	<p>TikTok を取り入れてもいいのかなと考えました。その理由として、周りの同じ若年層は Instagram と TikTok の利用者数が圧倒的に多いため、若年層に情報が届きやすいと感じます。なお、利用者はその次に X、Facebook の順に多いと私は感じております。</p> <p>また、スマートフォン上に情報が流れてきやすい点が TikTok の良い面です。スクロールをして様々な動画が流れるので、普段見ない動画でも目につきやすいです。</p> <p>一方、スクロールして好みの動画を探すということで、興味のない動画を飛ばしてしまう恐れもあります。そのような面もあり、かつ3種類の SNS を運営している血液センターがさらに1つ増やすのは大変かと思いますが、若年層の利用者の多い TikTok での啓発活動も可能性の一つとして視野に入れるのはいかがでしょうか。</p>
議長	今の奈良輪委員のご意見に対し、事務局はいかがでしょう。
事務局 (手塚副課長)	<p>事務局からお答えします。</p> <p>血液センター及び県では X、Facebook、Instagram を活用した広報をしているところですが、使用するために情報セキュリティ等の観点から広報課等と調整する必要がございます。非常に有益な御意見だとは思いますが、検討させていただくべくお時間を頂戴したいと思っております。</p>
議長	奈良輪委員、すぐできるというわけではないが、検討してみたいということです。よろしいでしょうか。
奈良輪委員	はい、大丈夫です。ありがとうございます。
議長	<p>他に御意見、御質問等ございますでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>それでは次に、「令和8年度 埼玉県献血推進計画(案)」について、御協議をお願いします。</p> <p>まず、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局 (芝課長)	<p>薬務課長の芝でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>(P.1)</p> <p>資料3 令和8年度埼玉県献血推進計画(案)について御説明いたします。</p>

まず始めに、(1) 計画策定の背景でございます。

本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律第 10 条第 5 項に基づき、県民の献血への理解を深めることや採血事業者による献血の受入が円滑に実施されるよう、令和 8 年度における献血推進に関する計画として策定するものでございます。

なお、委員の皆さまに事前送付した資料にはここの文面が「令和 7 年度における計画として策定」と記載してありますけれども、令和 8 年度の誤りでございますので、ここで資料の訂正をお願いしたいと存じます。

(2) 基本的な考え方でございますが、県は、「埼玉県献血推進協議会」を設置し、献血の普及啓発並びに献血者の組織化、献血制度の適正な運営を図っており、国、市町村、埼玉県赤十字血液センター及び献血関係団体などと連携を図り、地域の実情に応じた献血推進活動を行い、より多くの県民の皆様へ献血の御協力をいただけるよう努めてまいります。

(P. 2)

(3) 計画の期間は、令和 8 年度の 1 年間といたします。

(P. 3)

次に、2 献血確保目標でございます。

献血確保目標は、厚生労働省から示された国の血液の目標量に基づき、日本赤十字社が都道府県の人口の増減等の特性を参考に、県の目標量及び必要受付者数を算出し、県と協議の上、策定したものです。

まず初めに、(1) 献血により確保すべき血液の目標量として、令和 8 年度は、全血献血により 70,266L、成分献血により 39,904L の合計 110,170L です。令和 7 年度目標量に比べ、226L の減となっております。

(P. 4)

次に、(2) 血液の目標量を確保するために必要な献血受付者数については、令和 8 年度は、移動採血車（いわゆる献血バス）で 97,000 人、固定施設（いわゆる献血ルーム）で 182,000 人、合計 279,000 人といたしました。これは令和 7 年度目標人数に比べ、合計 2,000 人の増となっております。

なお、この献血バスによる献血受付者目標人数につきましては、市町村ごとの目標人数を定め、資料 11 ページ以降に別紙としてまとめました。

(P.5)

次に、3 具体的な方策でございます。基本的には、薬務課からご説明させていただいた令和7年度 of 取組みをベースにまとめております。

(1) 献血の普及啓発と献血組織の充実

ア 愛の血液助け合い運動については、7～8月にかけての運動期間に合わせ、「彩の国さいたま愛の血液助け合いの集い」を開催し、献血協力団体等の表彰やイベント等を行い、広く県民に献血の普及啓発を図ります。

イ 広報の強化については、薬務課公式 X 等の SNS を積極的に活用し、普及啓発を図ります。

また、血液センターは、公式 facebook、X 及び Instagram の活用を図ります。

ウ 市町村との連携については、引き続き、市町村に事業費の補助を行い、血液事業を支援します。

また、市町村広報誌に、県が実施するキャンペーンやイベント等の情報掲載を依頼するとともに、市町村の協力を得て献血協力団体(事業所)や校内献血実施校の確保を図ります。

(P.6)

(2) 若年層献血の推進

ア 次世代の献血者の育成については、引き続き、中学生を対象とした「献血推進ポスターコンクール」を開催します。

また、学校の社会科見学で関東甲信越ブロック血液センターを活用していただくなど献血の重要性について学ぶ機会を設けてもらえるよう、教育委員会等を通じて小・中・高等学校に働きかけます。

また、「血液に関する出前講座」や「献血セミナー」等を積極的に実施します。

・

イ 若年層向けキャンペーンの実施については、4～6月の「新社会人献血キャンペーン」、1～2月の「はたちの献血」キャンペーン、2～4月の「卒業献血キャンペーン」を実施し、若年層の献血者の確保に努めます。

また、10～30代を主なターゲットとして、9～11月に「初回献血!お友達&ご家族紹介キャンペーン」を実施します。

ウ 高校生献血の推進については、教育委員会等の関係機関と連携し、県内の公立高校及び私立高校における校内献血を引き続き推進するとともに、「血液に関する出前講座」等を積極的に実施し高校生献血の推進を図ります。

また、「高校生献血カード」を作成・配布し、複数回献血への理解と協力を求めます。

(P.7)

エ 学生献血推進ボランティアとの連携については、県内の大学生で構成する学生献血推進連盟と連携を図り、同世代からの働きかけというアプローチで若年層献血者の増加を図ります。

オ 県内プロスポーツチームとの連携については、サッカーやラグビーなどプロスポーツチームに献血のイベントに参加してもらい、スポーツに興味がある若年層を中心に献血の推進を図ります。

カ タレントを起用した啓発活動の展開については、彩の国けんけつ大使をはじめとする、タレントやキャラクター等をキャンペーンや学園祭等のイベントに積極的に起用し、若年層を対象に啓発活動を行います。

(P.8)

### (3) その他の献血の普及啓発

ア 一般県民向けということで、関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所の見学会の開催やショッピングモール等におけるイベントの実施等により献血の普及啓発を図ります。

イ 中高年層への献血啓発については、60～64歳までに献血を行うと献血可能年齢が69歳まで引き上げられることや、服薬の種類によっては当日献血できる場合があること等について、広い年齢層を対象に情報発信するということで、60～64歳を対象としたキャンペーンを1～3月に実施いたします。

### (4) 安全な血液の安定供給の確保

ア 複数回献血の推進については、継続的な協力が得られるように、献血 Web 会員サービス（ラブラッド）への加入を促進し、年に複数回の献血を推進することで、血液の安定的な確保を図ります。

イ 事業所等献血協力団体の確保については、事業所等への訪問によ

り献血協力団体を確保し、血液の安定供給を図ります。既に献血に協力いただいている事業所には、実施回数を増やすなど更なる協力を呼び掛けます。

また、県内自治体職員に対しても、職員献血への積極的な協力を呼び掛けます。

(P.9)

ウ 予約献血の推進については、来場者の一時的な集中を防ぎ、所要時間の短縮及び血液の安定確保のため、予約献血の推進を図ります。

エ 血液製剤の安全性を向上するための対策については、県民に、HIV等感染症の検査を目的とした献血を行わないこと、問診時等に虚偽の申告をしないことを周知します。

(5) 適正使用の推進については、埼玉県合同輸血療法委員会において、県内における適正かつ安全な輸血療法の向上を図るため調査や検討を行うとともに、「埼玉輸血フォーラム」を開催します。

(P.10)

#### 4 その他の重要事項

(1) 埼玉県献血推進協議会の開催については、来年度も血液に係る学識経験者をはじめ、関係機関、団体の代表で血液事業に対する施策について検討いただきたいと思えます。

(2) 血液製剤の在庫水準の把握と不足時の的確な対応については、血液センターの赤血球製剤等の在庫水準を把握し、在庫量が不足する場合には、所定のマニュアルに基づいて対策を講じます。

(3) 災害時等における献血の確保については、  
「埼玉県地域防災計画」に基づき、被災後直ちに血液センター等の被災状況を調査し、その機能の保持に努めるとともに、状況に応じた措置を講じます。

長くなりましたが、令和8年度の計画案の説明は以上でございます。  
御審議のほどよろしくお願いいたします。

議長

血液センターから、来年度の重点とする施策等で補足説明はありますか。

事務局 (中川所長)	特にありません。
議長	ただ今の説明について、御質問、御意見はございますか。 (意見なし)
議長	「令和8年度 埼玉県献血推進計画(案)」について御承認いただけるようであれば、リアクションボタンの拍手や挙手でお知らせください。 (承認)
議長	ありがとうございます。 それでは、御承認いただきましたので、この計画に沿って令和8年度の血液事業の推進を図ってください。  では、これを持ちまして、議事を終了します。委員の皆様から全体を通して何か御意見等ございますでしょうか。 (意見なし)  本日は学生さんに御出席いただきましたので、一言ずつ御意見等なにかあればお伺いしたいと思います。 まず奈良輪委員、なにかありましたらお話を伺いたいと思います。
奈良輪委員	埼玉県学生献血推進連盟 奈良輪と申します。 資料にも、初めての人を献血に来てもらうためのキャンペーン等もありましたが、親子で一緒に献血に行くキャンペーンも良いのではないかと考えております。 その理由として、私自身、献血ができない年齢の時から献血に興味を持っていたのですが、例えば初詣などで献血の呼びかけがあった際、私が興味を示したとしても、親世代の人からはあまり関心を持たれないことが多くありました。親世代にも献血に対してあまり興味がない方が多く、献血への認識が十分に広がっていないと考えております。 したがって、親世代の方も初めてでもよいのだというふうに呼びかけるキャンペーンがあってもよいのではないかと考えております。
議長	ありがとうございます。 ある程度の年齢になると、新しいことを始めるのを拒否したがるような傾向にもあるようなので、献血を若いうちから進めていくためにもその上の親の世代に対しても何か講じなければならないと私も思います。  それでは、住友委員、なにかご意見はありますか。
住友委員	住友と申します。献血推進についてお話をさせていただきます。

	<p>私の大学では年2回学内献血を実施していますが、友人の中で献血に参加している人は一人もいなかったため、現状の献血記念品への考えについて話を聞きました。</p> <p>例えば、コラボしたアニメのグッズを御礼の品として配布されることがあります。それに対し、少し関心を持つものの、クリアファイルを欲しいと思う人は少ないのではという意見がありました。</p> <p>逆に、どのようなものがあれば献血する気になるかと聞いたところ、次のような案がありました。</p> <p>一つ目は、お土産の品として選ばれるようなお菓子を、献血の御礼の品としてもらえたら参加するというものです。お土産の品について名前を知っていても買わない、食べたことがない若年層は多いため、献血の御礼として配布していただけるなら献血にも興味が湧くのではないかと思います。</p> <p>二つ目は、ポケモンカードです。献血限定カードなどがあると積極的に参加するという意見もありました。</p> <p>ついでには、カトラリーセットやマルチポーチ等よりも、特別なお菓子、ポケモンカード、ちいかわのような大人気コンテンツとコラボしたぬいぐるみ等の限定アイテムを献血の御礼品にすることが、若年層の献血者数を増やすためには有効であると考えます。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>確かに過去にはドリンク一つだけ貰えるようなこともありましたが、これからは何か新しい記念品を取り入れることも考えていかなければいけない時代になったのかもしれないと感じますね。</p> <p>多少お金のかかることもあるので、薬務課又は血液センターでも検討いただければと思います。</p> <p>他に委員の皆様からご意見はございますか。 (意見なし)</p> <p>事務局からは何かございますか。</p>
事務局 (芝課長)	<p>事務局の芝でございます。 学生連盟の委員の皆様、貴重な御意見ありがとうございました。</p>

	<p>すぐに実現可能とはいかない課題もあるかとは思いますが、頂いた御意見を参考に、特に若年層に向けた訴求力の高いイベントやキャンペーンになるように血液センターと一緒に検討したいと思います。</p> <p>今後とも我々では出てこないような柔軟なアイデア等を委員の皆様方から頂戴して、効果的な取り組みをしてみたいと思いますので、ぜひ今後ともよろしく願いいたします。</p>
議長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今後、血液事業や献血計画の実施にあたって、委員の皆様との御協力が必要と存じます。特に若年層献血が本当に重要だと思っております。</p> <p>今後とも皆さまの御支援、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。</p> <p>これもちまして、本日の議事を終了し、議長の任を下ろさせていただきます。本日は円滑な事業の議事の進行に御協力を賜りまして、誠にありがとうございます。</p>
司会	<p>登坂会長、ありがとうございました。</p> <p>委員の皆様には長時間にわたり御協議をいただきまして、誠にありがとうございました。今後とも血液事業推進のため、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>以上もちまして、令和7年度埼玉県献血推進協議会を終了させていただきます。なお、資料等の県ホームページへの掲載などにつきましては、事務局に一任させていただきますようお願い申し上げます。</p> <p>以上もちまして、画面の接続を切断していただき差し支えございません。</p> <p>本日はありがとうございました。</p>